



写真2 学会発表風景

る。当社では積極的に大学の研究室や公的研究機関からの助言を仰いでいる。一部の薬剤師が中心になって学術発表を行い、可能な限り投稿する努力をしている。しかし、学会発表、論文作成は自分ひとりだけではなく、職場の協力、共同研究者や指導者のサポートがあつてこそ完成するものである。

目標を掲げて研鑽することは、日々の臨床調剤業務を行うだけでなく、企業全体の士気の高揚と意識改革になると考える。ピノキオ薬局では、1年間に2～3回の発表を行っている。

6年制教育の導入を契機に、臨床研究に対する薬剤師の意識の向上は高まっていくに違いない。

## まとめ

以上、社内教育の一例を紹介したが、近年特に疾病が複雑化しており、それに伴い薬物治療は日々進歩している。また、薬剤師はジェネリック医薬品・OTC医薬品の幅広い知識も必要とされており、大学では勉強しなかつた知識が要求されるが、日常業務では体験できる場所や時間に限りがあるのが現状である。

薬学部が6年制なつた今、既卒の薬剤師は卒後も自ら学んでいかなければならない。

既に、患者中心の医療が求められており、私たち薬剤師は患者のみならず、医師とも連携・コミュニケーションをとりながら、個々のニーズに合った服薬指導をしていく必要がある。

薬剤師が今後活躍していくためには取り組んでいかなければならないことが多いが、国民、患者および医療関

係者から信頼される薬剤師になるためには生涯にわたる自己研鑽が必要である。人の生命健康にかかわる職能であることを深く心に刻み、絶えず薬学・医学の成果を吸収していくよう職場環境を整えることが今後必要であると考えている。

著者連絡先  
ピノキオ薬局 南河内店  
〒329-0431 栃木県下野市薬師寺3171-31 東照ビル1階  
TEL : 0285-40-1256  
FAX : 0285-40-1257  
E-mail : kondo@pinokio-pharmacy.com